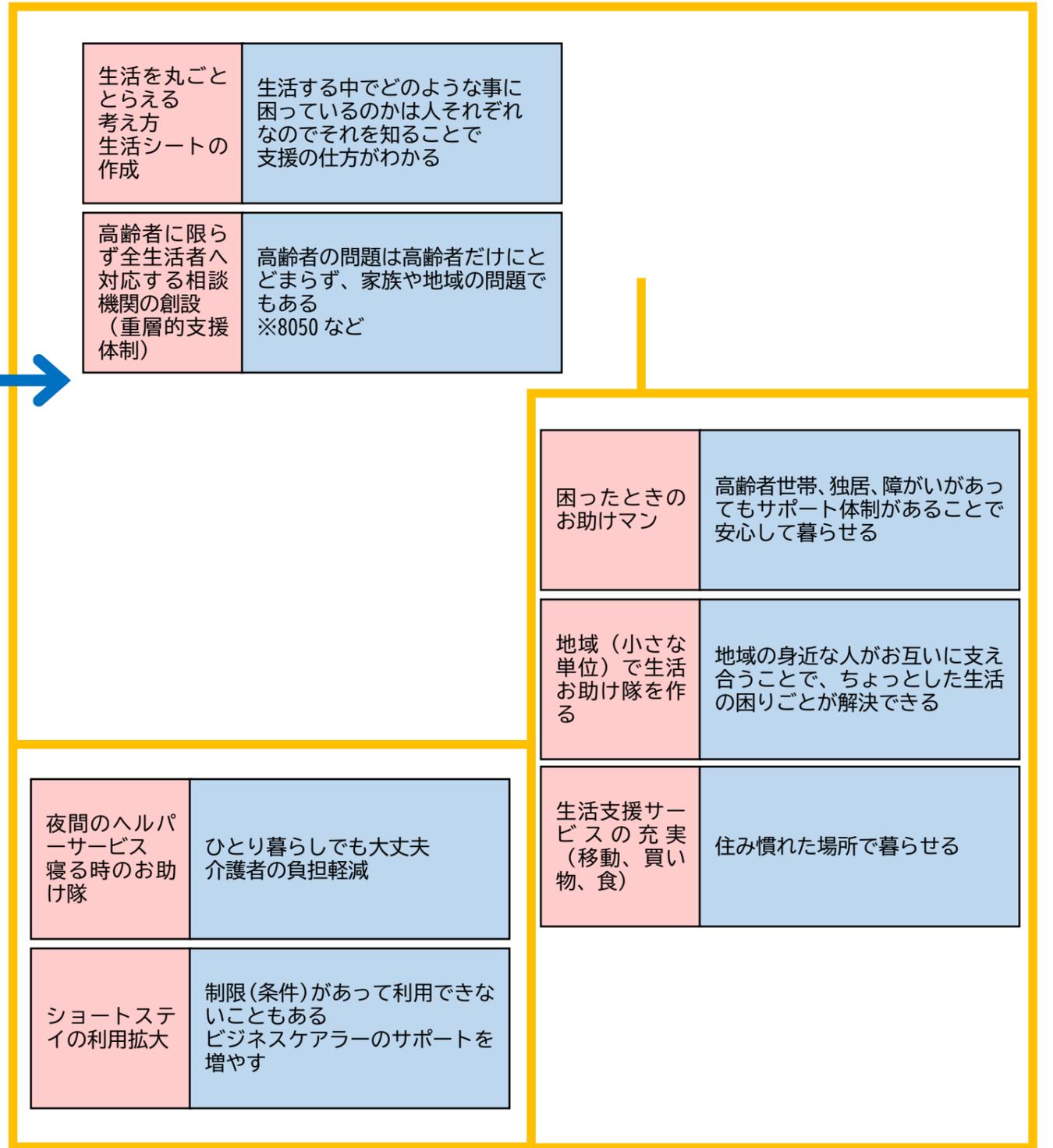
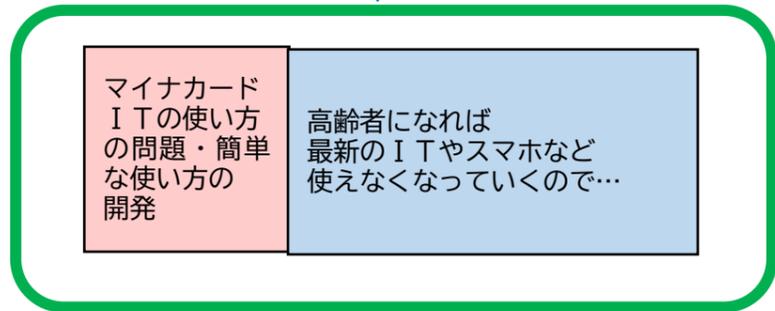
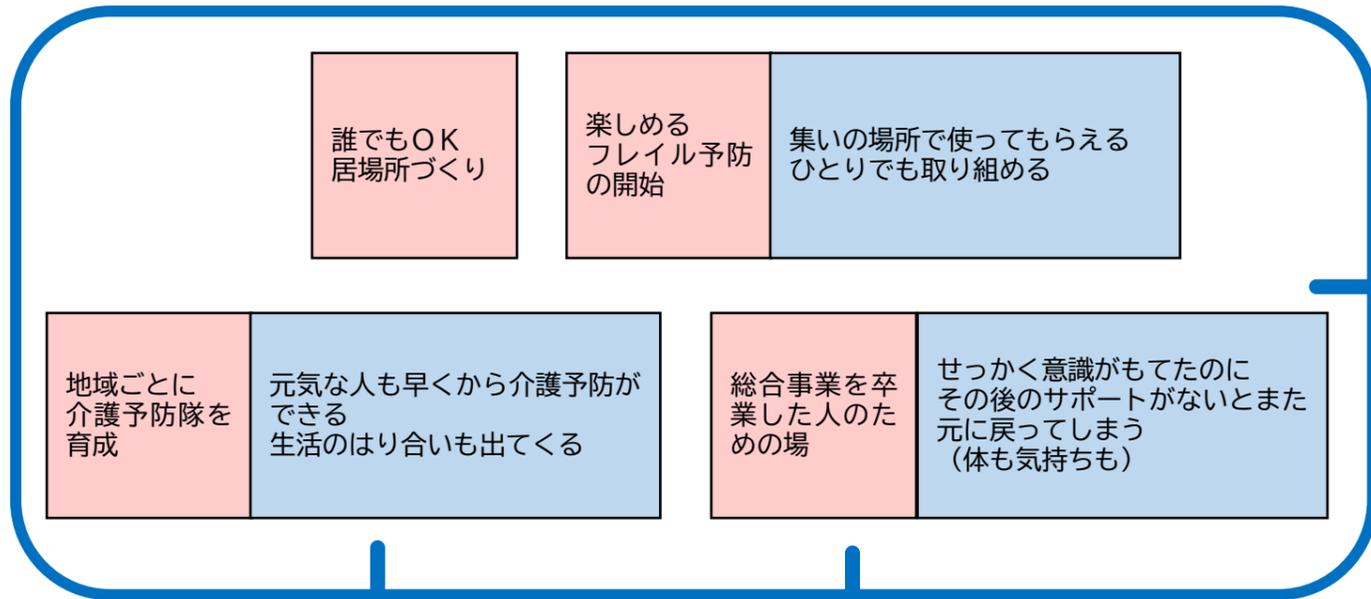


A



B

今以上に「予防」に力を入れる	50歳代から「予防」に特化した、脳トレ、ヨガ、筋力維持トレーニングができる場所が家の近くにある（地区ごと）
----------------	---

健康を維持できる場（リハビリなど）を作る	今の生活を続けられるよう気力・体力を付けておく事ができる
----------------------	------------------------------

ボランティアの場、活動の場づくり 地区ごとにまたは送迎付き（有料定額）	活躍できる場をつくり 多少の収入にもつながる 生きがいと介護予防
--	--

コミュニティカフェ	子ども、大人、高齢者（地区ごと） 障害者、誰でも行きたくなるようなカフェがあれば 地域全体で支えることができる
-----------	---

情報用タブレットの貸出し	必要な情報を的確に 素早く届ける
--------------	---------------------

気軽に移動サービスを受けられる隊	タクシー券や市の福祉車両を使い 介護が必要な人でも安く移動 できる
------------------	---

みてみて「教えて」「聞いて」隊	ひとり暮らしや高齢者などの世帯でのちょっとした困り事が解決できるー暮らしやすくなる
わかりやすいゴミ出しのしくみづくり	できない部分を手伝ってもらうことで自立した生活を続けられる

ひとつひとつのサービスをつなげる

力

菊川コンシェルジュ創設

なんでも移動相談室を開催する	住民の不安や困っていることを知るために、自宅へ積極的に訪問する 早期の介入ができる
----------------	--

菊川コンシェルジュの創設	必要とされていることの分類 それに対応する方針や方法の検討
--------------	----------------------------------

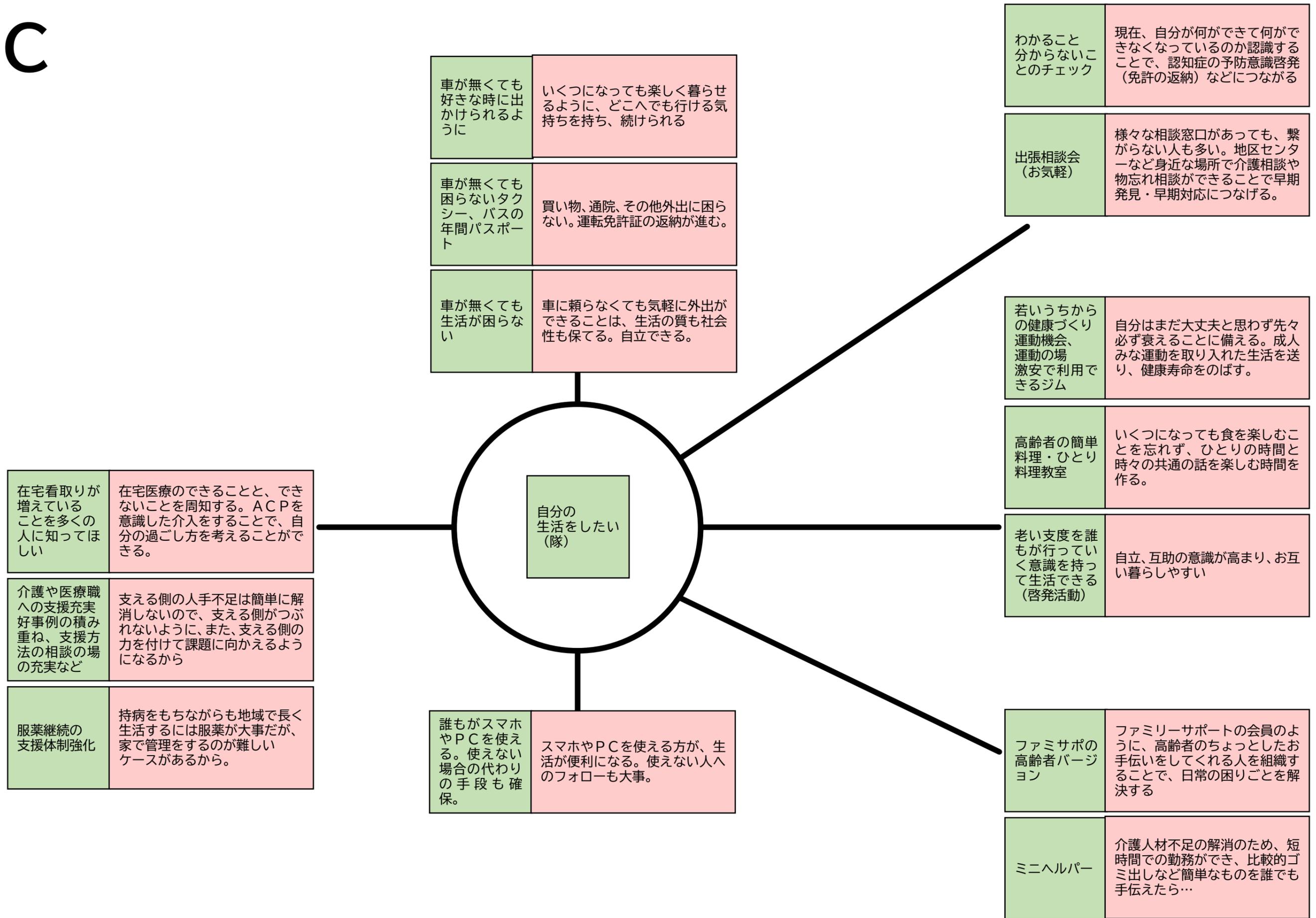
困ったときにすぐ相談できる場所（人）を誰でもわかるよう案内する	ひとりで考えないで相談することで 今ある生活を続けることができる
---------------------------------	-------------------------------------

子ども達に色々な職業を体験してもらうぞ	NSだけではなく、ヘルパー、ケアマネ、相談員、調理師など病院や施設で働いている人がいることを知ってもらう。 将来の人材を作る。
---------------------	--

施設と地域がつながって体験の場を	暮らしにくさをみんなが知る事で理解したり、工夫したりよりよい意見が出たりできるー環境の改善
------------------	---

つなげたくてもつながりたくても、どこに相談すれば分からないースピードー多くの手順をしなくてもつなげてくれると相談しやすい	つなぎの場
--	-------

C



在宅看取りが増えていることを多くの人に知ってほしい

在宅医療のできることと、できないことを周知する。ACPを意識した介入をすることで、自分の過ごし方を考えることができる。

介護や医療職への支援充実 好事例の積み重ね、支援方法の相談の場の充実など

支える側の人手不足は簡単に解消しないので、支える側がつかれないように、また、支える側の力を付けて課題に向かえるようになるから

服薬継続の支援体制強化

持病をもちながらも地域で長く生活するには服薬が大事だが、家で管理するのが難しいケースがあるから。

車が無くても好きな時に出かけられるように

いくつになっても楽しく暮らせるように、どこへでも行ける気持ちを持ち、続けられる

車が無くても困らないタクシー、バスの年間パスポート

買い物、通院、その他外出に困らない。運転免許証の返納が進む。

車が無くても生活が困らない

車に頼らなくても気軽に外出ができることは、生活の質も社会性も保てる。自立できる。

誰もがスマホやPCを使える

スマホやPCを使える方が、生活が便利になる。使えない人へのフォローも大事。

わかること分らないことのチェック

現在は、自分が何ができて何ができてなくなっているのか認識することで、認知症の予防意識啓発(免許の返納)などにつながる

出張相談会(お気軽)

様々な相談窓口があっても、繋がらない人も多い。地区センターなど身近な場所で介護相談や物忘れ相談ができることで早期発見・早期対応につなげる。

若いうちからの健康づくり運動機会、運動の場激安で利用できるジム

自分はまだ大丈夫と思わず先々必ず衰えることに備える。成人みな運動を取り入れた生活を送り、健康寿命をのばす。

高齢者の簡単料理・ひとり料理教室

いくつになっても食を楽しむことを忘れず、ひとりの時間と時々共通の話を楽しむ時間を作る。

古い支度を誰もが行っていく意識を持つて生活できる(啓発活動)

自立、互助の意識が高まり、お互い暮らしやすい

ファミサポの高齢者バージョン

ファミリーサポートの会員のよう、高齢者のちょっとしたお手伝いをしてくれる人を組織することで、日常の困りごとを解決する

ミニヘルパー

介護人材不足の解消のため、短時間での勤務ができ、比較的ゴミ出しなど簡単なものを誰でも手伝えたら...

D

空き家をリフォームして若い家族に貸出したり、高齢になって広い家から狭い家に住み替えたいときの仲介がある	高齢でも家を貸出すことで収入が得られ、狭い家に住み替えることで、家事や移動が楽になる電気代も安くなったり。
---	---

空き家、土地など希望あれば使用できる	持っている人たちも管理しきれない希望ある方が使ってくればお互いに良いのではないか
--------------------	--

本人の居場所がわかる(GPS)	認知症等で1人で外に出てしまうこともあるが、家人が常にその人に付いていることはムリがある。すぐに探すことができる
-----------------	--

自動運転の車、一緒に徘徊してくれる介護ロボットやロボット犬の貸出し、ロボット店員の貸出し	将来的に、介護休暇を頻回にとらなくても在宅介護できる社会の実現。高齢者が行きたいときに外出できる、体が動かなくても仕事ができる
--	---

専門性を生かしたアドバイスで相談者に身近 現役世代は忙しいので...	福祉分野で専門性を生かした退職後の人材活用
---------------------------------------	-----------------------

Well Being 報告会を開催する	できるに視点を置くようになる成功事例を共有できるQ&Aのような形で、誰でも閲覧できる
---------------------	--

3

相談の再構築ネットワーク	協力による相談体制 →365日対応 人 etc 払拭と問題解決
--------------	---------------------------------------

相談相手	市や包括...相談しづらい、スピード感がない もっと身近で近い距離の方が気軽に相談できる
------	---

1

生活の困りごとを助けてくれる〇〇〇の発足	小さな困り事(ゴミ出しとか縫物とか)を気軽に解消でき、在宅生活が維持できる お互い得意なことで役割を持つ
----------------------	---

送迎してくれた方にトークンを与える	送迎しやすくなり地域事業に参加しやすくなる
-------------------	-----------------------

朝・昼・夜の食事提供サービス(配食など)	市の事業では、平日の日中のみの補助。朝食提供は少ない。困るのは昼食だけではないはず。
----------------------	--

2

面のコミュニティから 点のコミュニティへ新しい人のつながり	子育てから高齢者支援へ
----------------------------------	-------------

自治会単位で2週間に1回ぐらい集まる ことができる	日中ひとりになってしまう高齢者が増えている。定年後も自宅で過ごす60~70歳ぐらいの人がいる。その人たちの力を借りることができる。ただ話すだけで良い。
------------------------------	---

インフォーマルな生活支援(地域で)(ゴミ出し、電球交換等)	独居やフレイル状態の人がタイムリーに相談、生活援助を受けるサービスがない。地域のコミュニケーション増に期待
-------------------------------	---

片付け隊、お助け隊。家具を動かす、修理 スマホかけこみ相談。電球・家電相談一緒に散歩する、買い物に出る	余暇や余った時間を使って気軽に助け合いができるまちづくり。一緒に散歩するだけなら、子育て中でもできる。異世代のつながりができるかも。
--	--

インターネットが使えるようになる。 講師の派遣教室をする	実際に会わなくても人とつながれる 買物が家にいながらできる自分の好きな時間にでき脳も活性化←ゲームとかも生活が便利になる、豊かになる
---------------------------------	---